

【米田主宰の俳句】

秋の七草

米田規子

千日紅老いて親しきお隣さん  
同病の話が弾み水引草  
秋の七草ゆったりと書く大きな字  
葱がまだ細いとメニュー変更す  
赤とんぼ忘れかけたる加賀言葉  
青蜜柑ちから抜くこと難しく  
花野を走るたのしみを待つように  
老人もゲームするなり暮の秋  
竹の春ざわざわなにか急く思い  
金木犀いちにちを濃く生きている